

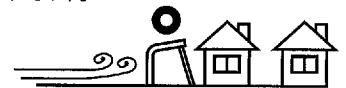
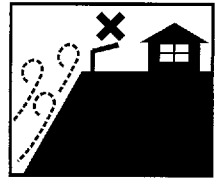
# カーブポートⅡ

## ワイドタイプ（一般地域用）

### ■施工される方へのお願い

#### ▲ 注 意

- 製品破損による人への被害、物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください
- 設置条件
- 母屋の屋根からの雪が直接当たらない場所に設置してください。落雪により製品が破損するおそれがあります。
- 本製品は一般地域用です。積雪の多い地域には取り付けないでください。  
一般地域用600タイプ…積雪20cm以下の地域
- 本製品は地上階に取付ける設計となっております。2階以上の高所に取付けると強風により製品が破損するおそれがあります。
- 柱の移動は、当社指定範囲内にしてください。
- 崖などの高低差のある場所には設置しないでください。
- 風当りの強い場所及びサイドスクリーンを付ける場合は補助柱で製品の補強をするとともに、風にあおられない向きに取り付けてください。  
(前枠を建物側に向けて設置してください。)  
(例1)：丘陵地  
(例2)：田畑・野原・風を妨げる物のない平地に隣接した場所や海岸沿い等
- 部材の固定
- タッピングねじの下穴は、指定された下穴より太いドリルを使用しないでください。
- 組立てねじ・ボルトは必ず指定のものを使用してください。又、使用中緩まぬように締め付けてください。
- 施工時の足場について
- 施工時はしっかりと足場を設け、転落などの危険がないよう注意してください。
- 基礎について
- 基礎は当社指定寸法以上にしてください。
- 地下埋設物（給排水管など）に影響を及ぼさないようご注意ください。
- 寒冷地で凍上のおそれのある地域に取付ける場合には、凍上線の下まで基礎を設けてください。
- 基礎には海砂及び急結剤・凍結防止剤を使用しないでください。柱が腐食するおそれがあります。
- 養生期間は十分（4日～1週間）にとり、養生期間中は重いものをのせたり、振動させたりしないようご指示ください。
- 柱には水抜き穴をあけてください。柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。
- 絶縁処理について
- アルミ形材が亜鉛・ステンレス以外の金属と接触する時は、絶縁処理をしてください。
- 屋根パネルについて
- 屋根パネルは当社指定の製品をご使用ください。
- 施工について
- みだりに改造・変更（階段屋根・母屋への取付け・四周の囲い等）をしないでください。
- 取付けは専門業者の方が行なってください。専門知識がない方が施工されますと不具合発生の原因となる可能性があります。
- シーリング指定箇所には必ずシーリング材を充てんしてください。
- 水平・垂直は正確に測ってください。直角が出ていないと施工に支障がでるおそれがあります。
- 当社指定の付属品以外は取り付けしないでください。



### ■お施主様へのお願い

#### ▲ 注 意

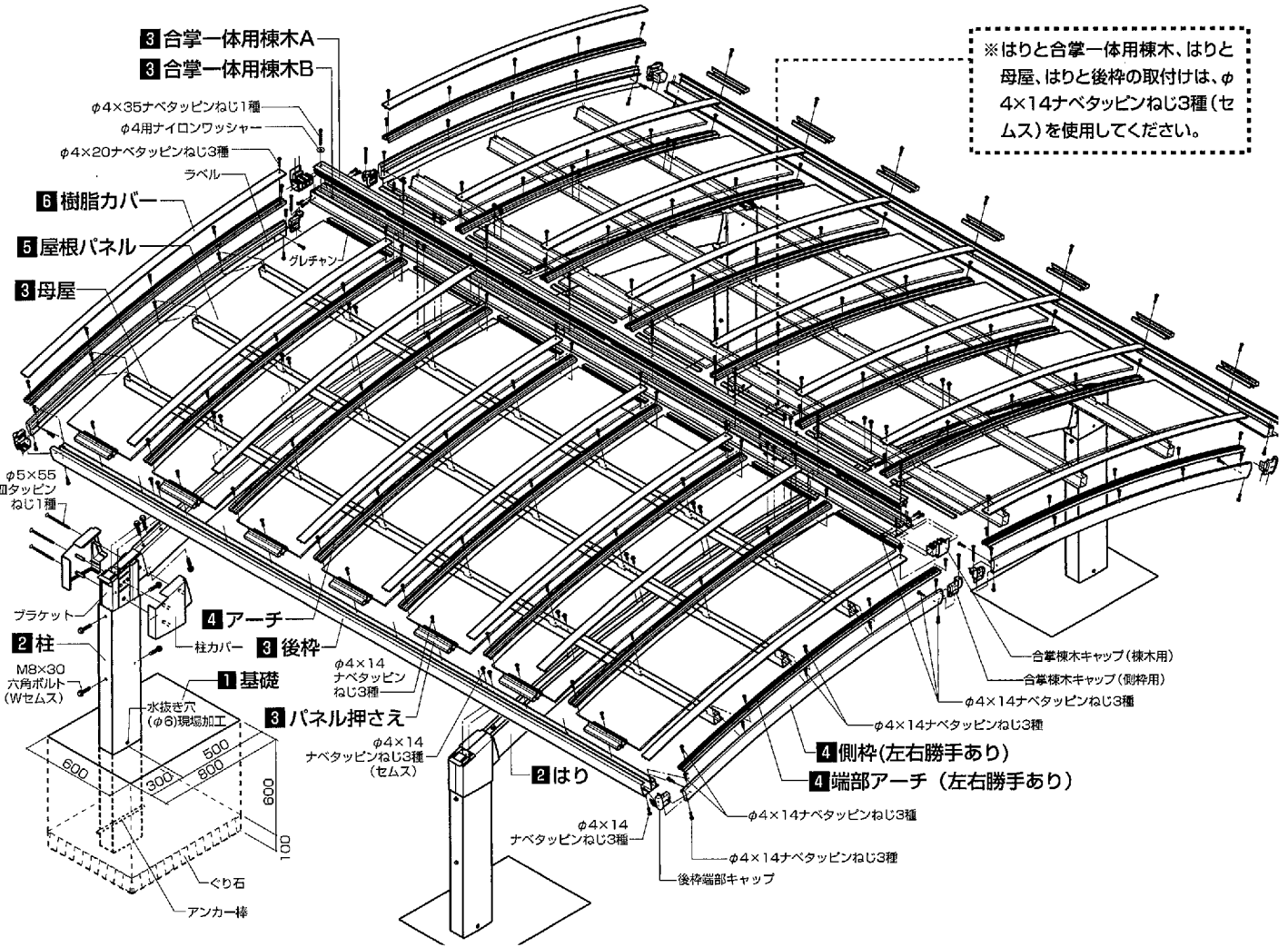
- 屋根の上には絶対にのらないでください。転落するおそれがあります。
- 積雪が20cmを超える前に雪おろしをしてください。製品破損による被害のおそれがあります。  
雪の重さは雪の状態により大きく変化します。特に春先の雪は重く降雨や湿雪の後などは新雪に比べ3倍位の重さになります。  
※積雪量1cmあたり3kg/m<sup>2</sup>（比重0.3）で算出しています。（雪おろしの際、絶対に水をかけないでください。雪がさらに重くなります。）

#### お 願 い

- 当社指定の付属品以外は取り付けしないでください。
- 屋根の上に物をのせないでください。
- ボルト・ナット・ねじ等は絶対に緩めないでください。
- 積雪時・強風時には製品の補強のため、補助柱を使用してください。
- 雪おろしの際、金属製のスコップ等を使用すると屋根材が割れたり傷つく原因になります。プラスチック製のスコップ等で静かに行なってください。

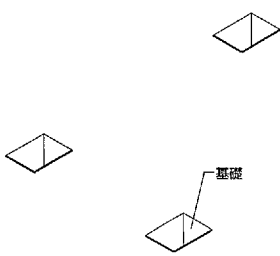
# カーブポートII ワイドタイプ (一般地域用)

## ■構造説明図

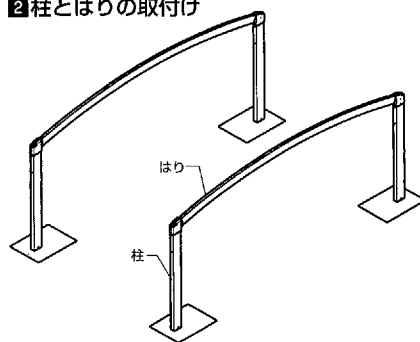


## ■組立て手順

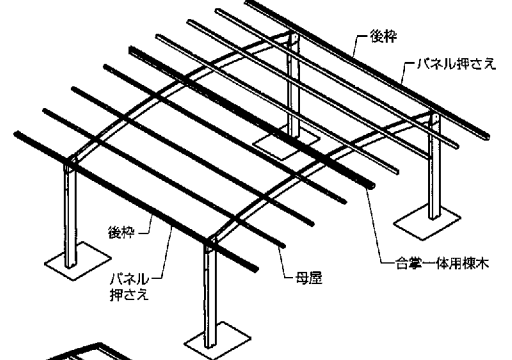
### 1 基礎の施工



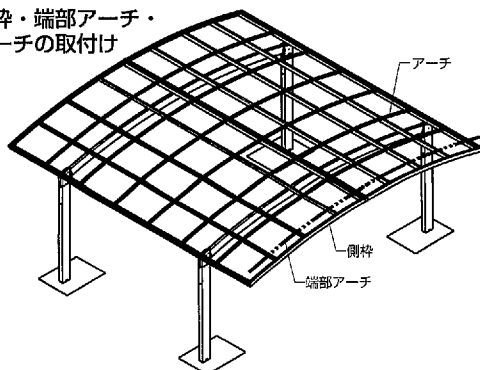
### 2 柱とはりの取付け



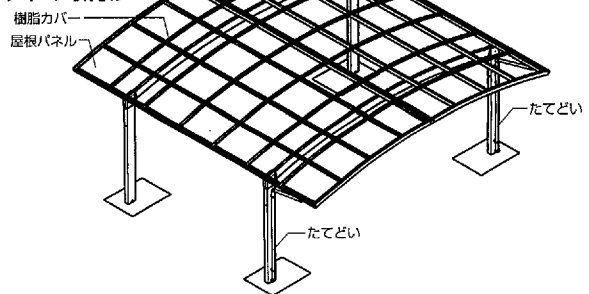
### 3 合掌一体用棟木・母屋・後枠・パネル押さえの取付け



### 4 側枠・端部アーチ・アーチの取付け



### 5 屋根パネルの取付け 6 樹脂カバーの取付け 7 たてどいセットの取付け



## ■取付け順序 (基本タイプ)

### 1 基礎の施工

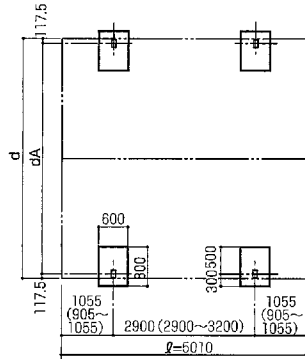
●柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。

### ■露出し位置

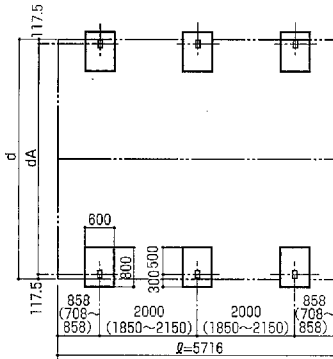
※( )内寸法は柱移動範囲を示す。

サイズ呼称	d	dA
48	4876	4641
54	5467	5232

### 50サイズ

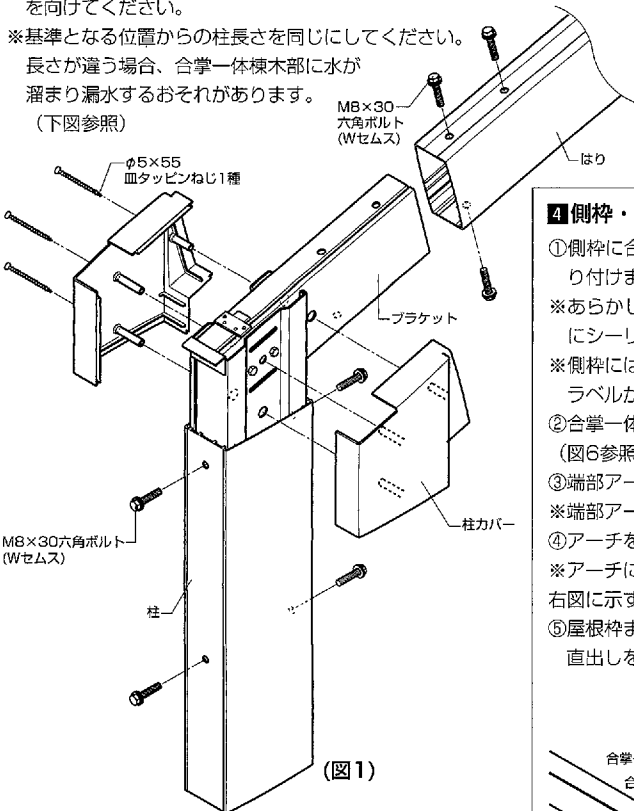


### 57サイズ

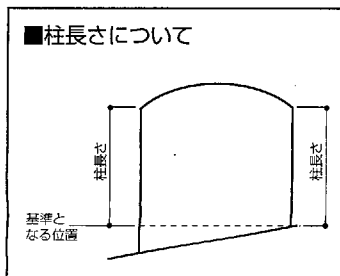


### 2 柱とはりの取付け (図1参照)

①柱にブラケット・アンカー棒をそれぞれ取り付け、柱を建て込みます。  
 ②はりをブラケットに取り付けます。その後、柱カバーを取り付けます。  
 ※「使用上の注意」ラベルが張ってある柱にたてどいセットを取り付けますと、表示が見えなくなります。たてどいセットの取付けがない面に表示ラベルを向けてください。  
 ※基準となる位置からの柱長さを同じにしてください。  
 長さが違う場合、合掌一体棟木部に水が溜まり漏水するおそれがあります。  
 (下図参照)

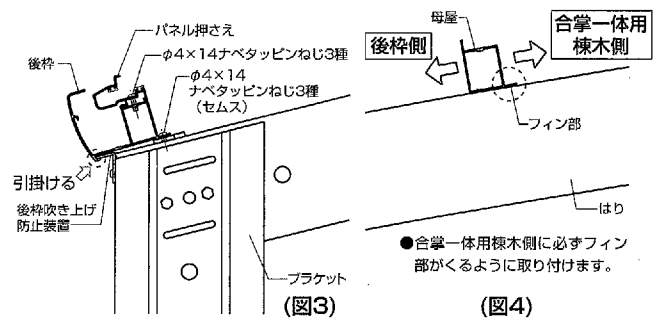
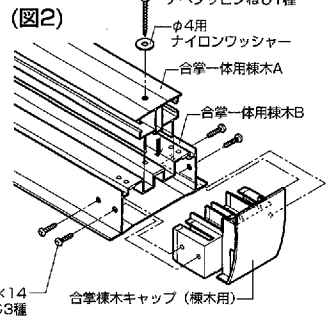
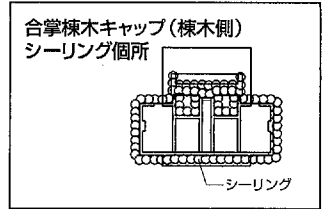


### ■柱長さについて



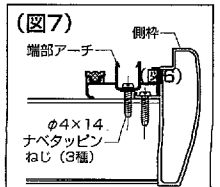
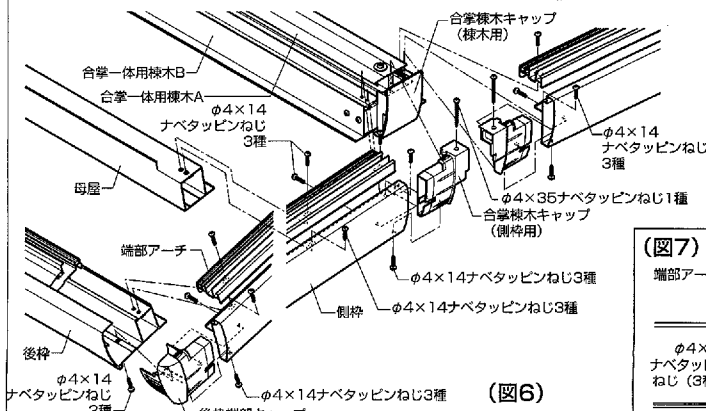
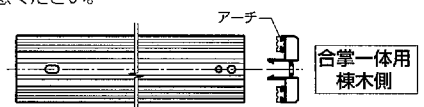
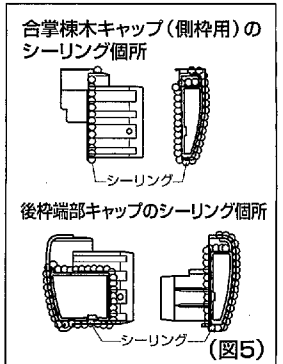
### 3 合掌一体用棟木・母屋・後枠・パネル押さへの取付け

①合掌一体用棟木A・Bを組み立てます。  
 ②合掌一体用棟木に合掌棟木キャップ(棟木用)を取り付けます。  
 ※あらかじめ合掌棟木キャップにはシーリング材を充てんしておいてください。(図2参照)  
 ③パネル押さえを後枠に取り付けます。  
 ④後枠吹上げ防止金具に後枠を引掛けた後、後枠をブラケットに取り付けます。(図3参照)  
 ⑤母屋をはりに取り付けます。  
 ※合掌一体用棟木側にフィン部が向くように取り付けます。(図4参照)  
 ⑥合掌一体用棟木をはりに取り付けます。  
 ※柱移動した場合、合掌一体用棟木B・後枠・母屋の使用しない穴に穴ふさぎシールを張ってください。



### 4 側枠・端部アーチ・アーチの取付け

①側枠に合掌棟木キャップ(側枠用)と後枠端部キャップを取り付けます。  
 ※あらかじめ合掌棟木キャップ(側枠用)と後枠端部キャップにシーリング材を充てんしておいてください。(図5参照)  
 ※側枠には、ラベルがある方を合掌一体用棟木側にしてください。  
 ②合掌一体用棟木・後枠・母屋に、側枠を取り付けます。(図6参照)  
 ③端部アーチを側枠の上から取り付けます。  
 ※端部アーチには左右があります。(図7参照)  
 ④アーチを取り付けます。  
 ※アーチには前後の区別がありますので、ご注意ください。  
 右図に示す方が合掌一体用棟木側になります。  
 ⑤屋根枠まわりの対角・水平出し及び柱の垂直出しを行ってください。



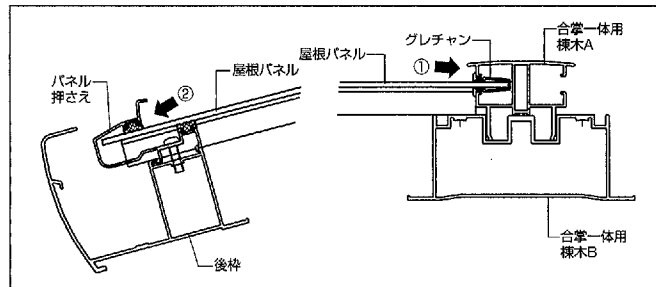
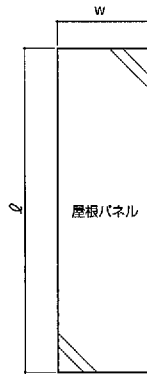
# カーブポートII ワイドタイプ (一般地域用)

## ■屋根パネルの取付け

- ①屋根パネルの端部にグレチャンを取り付け、水平に合掌一体用棟木に差し込みます。
  - ②屋根パネルをパネル押さえの透き間に差し込みます。
- ※アーチ部のみ込み寸法は、左右均等にしてください。(のみ込み代12mm)

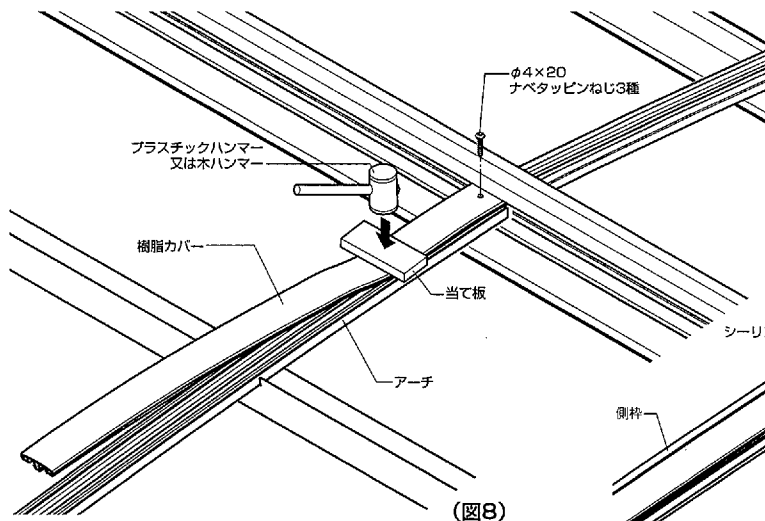
### ■屋根パネル寸法表

サイズ呼称	ℓ	W	単位mm
48	2426	690	
54	2734		



## ■樹脂カバーの取付け (図8参照)

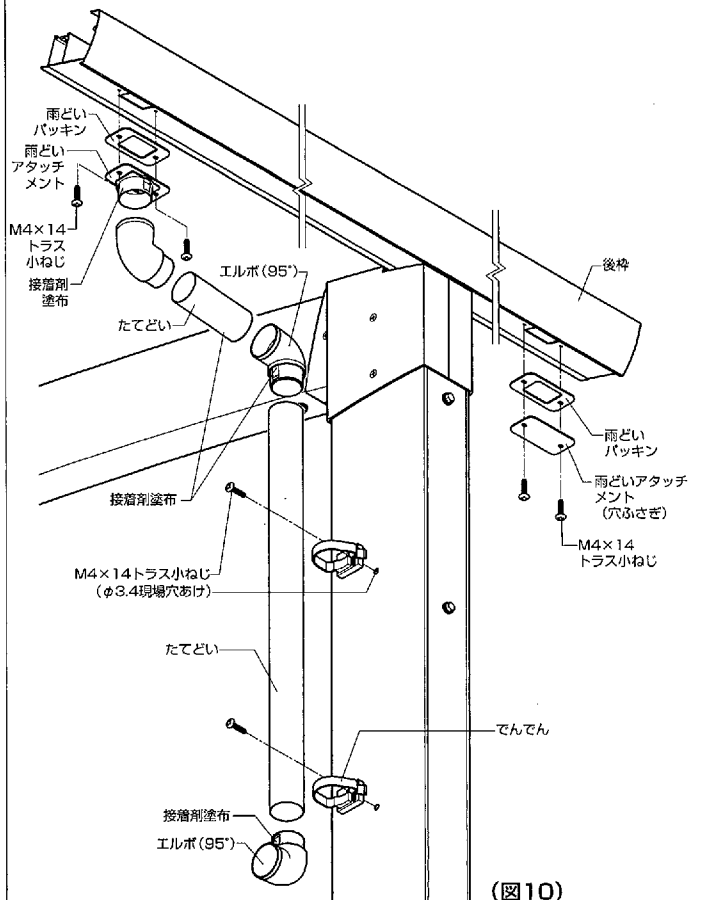
- ①樹脂カバーで屋根パネルを固定します。
  - ②樹脂カバーを取り付ける位置を確認し、樹脂カバーが斜めにカットされている方を合掌一体用棟木の透き間に4mm程差し込みます。
  - ③樹脂カバーを合掌一体用棟木側からたたき込み、約1/3程入れた後、後枠側に樹脂カバーの端部を先に入れて、更にたたき込みます。
- ※樹脂カバーを取り付けた後、合掌一体用棟木側の透き間をシーリングしてください。(図9参照)
- ※樹脂カバーをたたき込む際、必ず当て板をしてください。
- ※必ず型材と樹脂カバーのはめ合わせる位置が一致していることを確認してください。
- ※樹脂カバーをたたき込むハンマーは、必ずプラスチックハンマー又は、木ハンマーを使用してください。
- ※樹脂カバーの中央が少しへこむまでたたき込み、確実に取付けたことを確認してください。
- ※一度取り外した樹脂カバーは再度使用できませんのでご注意ください。



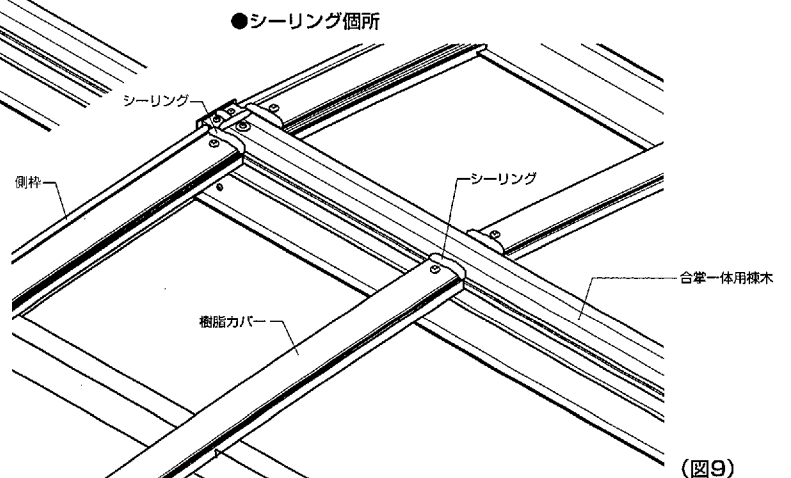
(図8)

## ■たてどいセットの取付け (図10参照)

- ①後枠の両端に水抜き穴加工がしてあります。片方にたてどいセットを取り付けます。
- ②もう一方の穴は、雨どいアタッチメント(穴ふさぎ)を取り付けます。



(図10)



(図9)

■縦連棟の施工手順

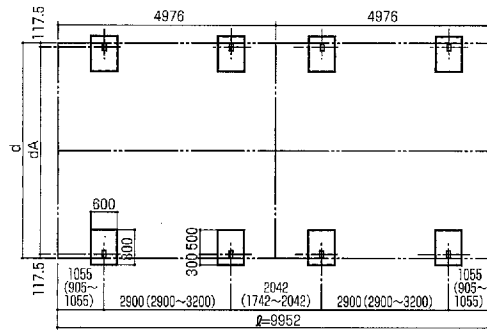
1 基礎の施工

- 柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
- ※基礎構造については、基本タイプを参照してください。

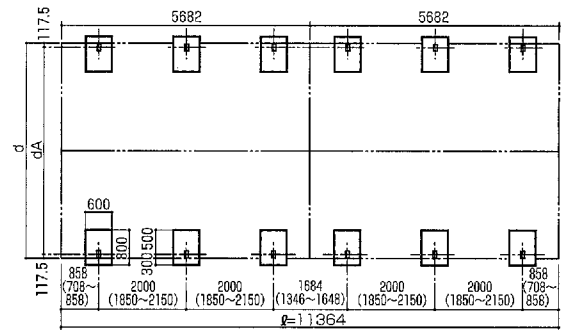
単位mm		
サイズ呼称	d	dA
48	4876	4641
54	5467	5232

■墨出し位置 ※（ ）内寸法は柱移動範囲を示す。

50サイズ+50サイズ



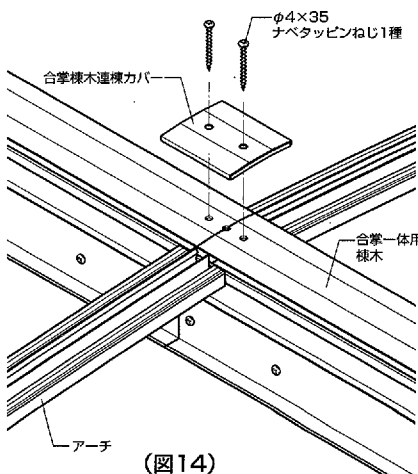
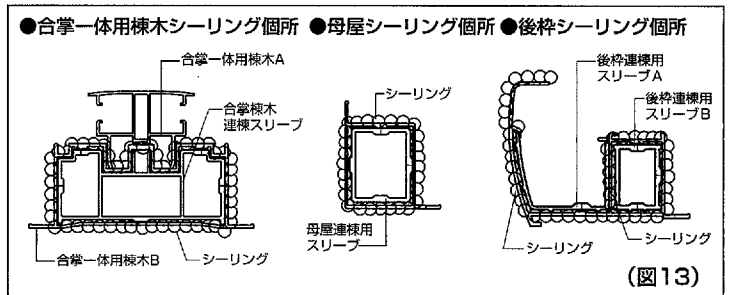
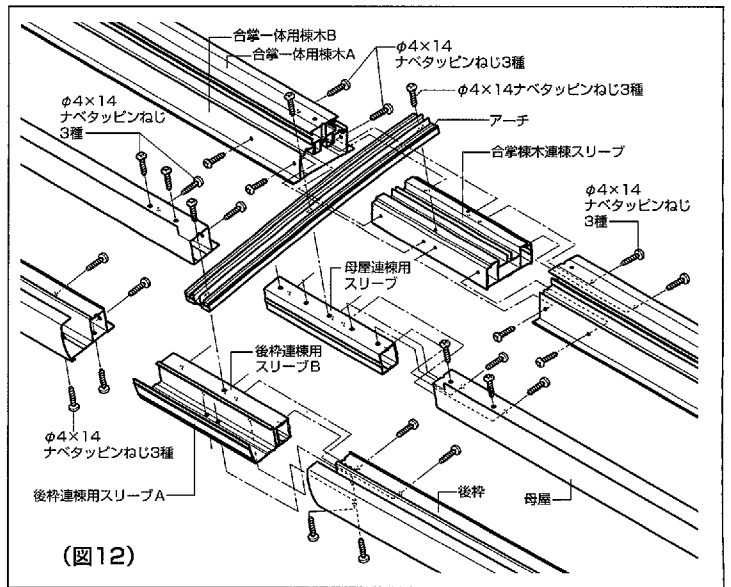
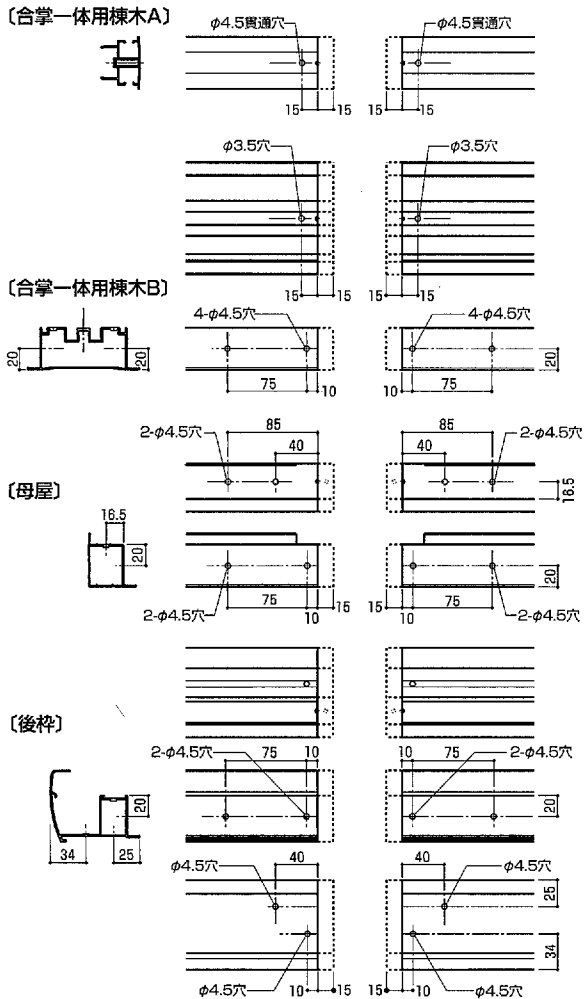
57サイズ+57サイズ



2 本体の組立て

- ①組立て前に、合掌一体用棟木・母屋・後枠の連棟側を現場加工してください。(図11参照)
- ②連棟部分を組み立てます。(図12参照)
- ※連棟部分にシーリング材を充てんし、連棟スリーブ・合掌一体用棟木・母屋・後枠をそれぞれ接続します。(図13参照)
- ③合掌一体用棟木の接続部分に合掌棟木連棟カバーを取り付けます。(図14参照)
- ※連棟部分以外の組立ては、基本タイプを参照してください。

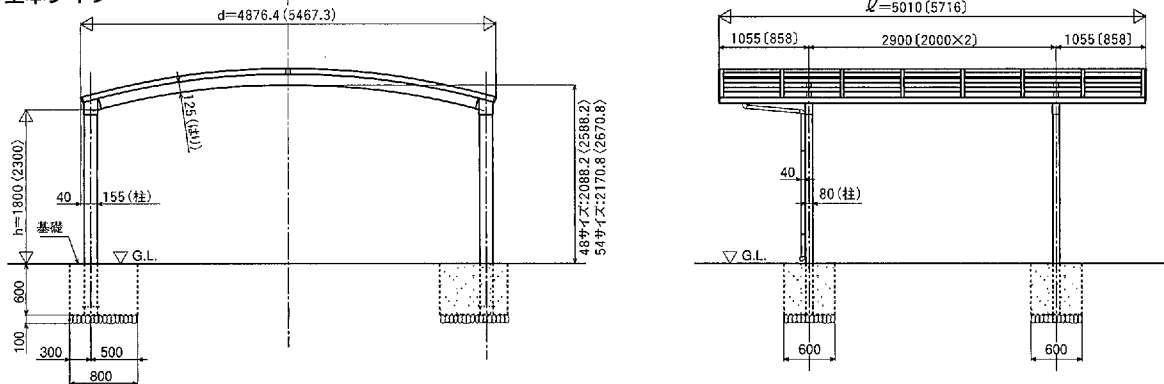
■現場加工図 ※破線部は現場切断



# カーブポートII ワイドタイプ (一般地域用)

## ■納まり参考図

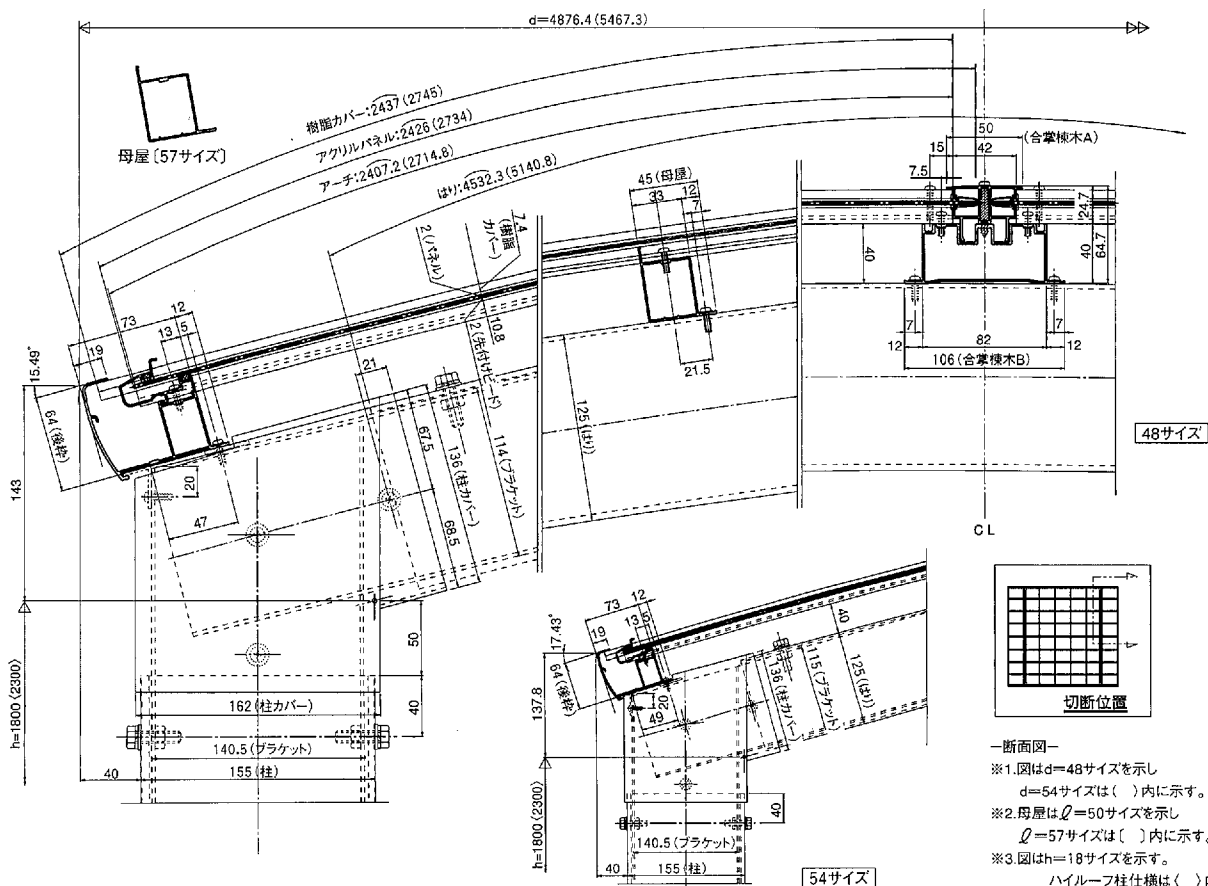
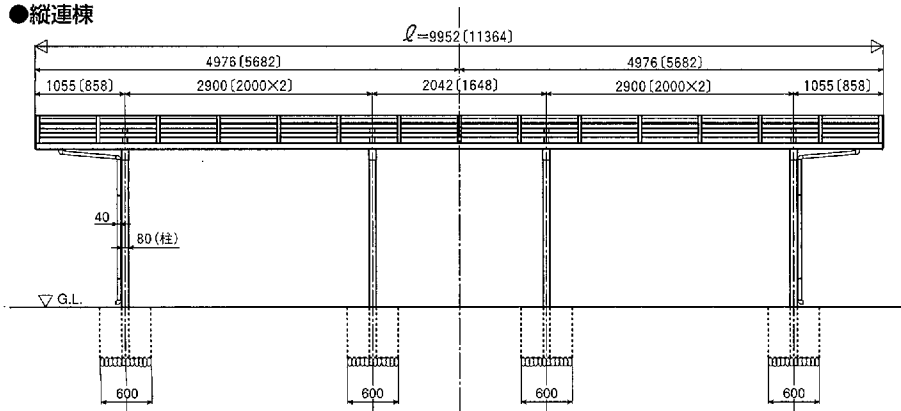
### ●基本タイプ



—断面—

- ※本図は $h=18$ サイズを示す。ハイルーフ柱仕様は( )に示す。
- ※本図は $d=48$ サイズを示す。 $d=54$ サイズは( )に示す。
- ※本図は $l=50$ サイズを示す。 $l=57$ サイズは[ ]に示す。

### ●縦連棟



—断面—

- ※1.図は $d=48$ サイズを示し  
 $d=54$ サイズは( )内に示す。
- ※2.母屋は $l=50$ サイズを示し  
 $l=57$ サイズは[ ]内に示す。
- ※3.図は $h=18$ サイズを示す。  
ハイルーフ柱仕様は( )内に示す。